

24日 木曜

ルカ

23:13 ピラトは祭司長たちと指導者たちと民衆とを呼び集め、

23:14 こう言った。「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来たけれども、私あなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えているような罪は別に何も見つかりません。

23:15 ヘロデとても同じです。彼は私たちにこの人を送り返しました。見なさい。この人は、死罪に当たることは、何一つしていません。

23:16 だから私は、懲らしめたくらうえで、釈放します。」

23:17 [本節欠如]

23:18 しかし彼らは、声をそろえて叫んだ。「この人を除け。バラバを釈放しろ。」

23:19 バラバとは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢にはいらっていた者である。

23:20 ピラトは、イエスを釈放しようと思って、彼らに、もう一度呼びかけた。

23:21 しかし、彼らは叫び続けて、「十字架だ。十字架につけろ。」と言った。

23:22 しかしピラトは三度目に彼らにこう言った。「あの人がどんな悪いことをしたのか。あの人には、死に当たる罪は、何も見つかりません。だから私は、懲らしめたくらうえで、釈放します。」

23:23 ところが、彼らはあくまで主張し続け、十字架につけるよう大声で要求した。そしてついにその声が勝った。

23:24 ピラトは、彼らの要求どおりにすることを宣告した。

23:25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢に



はいていた男を願いどおりに釈放し、イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。

正義と真実によって判断されるなら、イエス様は無罪で釈放されるべきでしたが、ピラトは暴動を恐れてイエス様を死刑にさせました。暴動が起こることというのは自分の統治能力がないと査定されるからです。自分の出世のために神の子を犠牲にしたのです。

群衆は革命を起こさないイエス様に失望していました。失望は怒りに変わり、それが集団心理によって暴徒化するところまでいってしまったのです。彼らはかつてはイエス様のいやしや奇跡を求めて従っていた、または好意的に思っていた人々でした。それでも自分の勝手な救い主像や期待に合わない、反対者になってしまったのです。

私たちがまだ完全に神様の御計画が分からないときには、失望したり悪態をつきたくなる思いにとられるかもしれません。そのときはあくまでも全能にして愛の神様に祈って聞くことです。それをしないでいると、神様との関係が健全でなくなってしまう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

